

(4) 県立東浦高等学校

ア 研究の経過

月日	活動内容
4月	2020東浦高校グランドデザイン決定及び周知
5月14日	カリキュラム・マネジメント検討用シート作成
6月12日	第1回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 研究の概要，研究方針の説明 東浦地区研究協力校代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解
6月25日	カリキュラム・マネジメント検討用シート分析結果を職員会議で報告
8月4日	現職研修 1学期の振り返り・SWOT分析シート 分析結果を職員室に掲示
9月8日	第2回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：東浦町立東浦中学校 資質・能力の育成に向けた取組についての講義，授業参観，校内見学
10月14日 ～27日	公開授業週間【グランドデザインを意識した授業の実践，及び小中高連携の意識を高める】
10月22日	カリキュラム・マネジメント分析シートを職員会議で報告 東浦高等学校改善のための課題についてのアンケート実施
11月2日	第3回研究協力校連絡会（東浦地区） 会場：県立東浦高等学校 各校の資質・能力の育成に向けた実践についての協議，発表会資料の検討
11月20日	第4回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 発表会に向けてのリハーサル，本年度の研究のまとめについて（研究紀要）
11月27日	第60回総合教育センター研究発表会（中間報告）
2月16日	第5回研究協力校連絡会 会場：総合教育センター 本年度の研究のまとめと次年度への取組について

イ 過程で見えてきたこと

教職員全体でSWOT分析を行ったところ，次のことが見えてきた。本校の強みとしては，「PTAの活動が熱心」「町内唯一の県立高校」「部活動の信頼が厚い」「親・兄弟に卒業生が多い」「幅広い進路選択が可能」などの外部環境，「素直な生徒が多い」「コースに特色がある」「少人数クラスの実施」「グランドデザインが明示されている」「部活動が活発」などの内部環境が挙げられた。一方弱みは，外部環境として，「以前課題が多かった学校のイメージが残っている」ことが，内部環境としては「生徒が学習意欲や主体性に乏しい」「多様な生徒への対応が困難」などが挙げられた。

カリキュラム・マネジメント検討用シートの結果からは次のことが見えてきた。取組が進んでいる項目として，「勤務校では，学校の教育目標や重点目標には『生徒に身に付けさせたい力』や『めざす生徒像』が具体的に記述されている」「勤務校では，教員以外のスタッフと連携協力している」，そして「分掌主任や教科主任は，ビジョンを基にカリキュラムの工夫や研究推進の具体策を実行している」が挙げられた。また，取組に課題が残る項目として，「勤務校では，指導の改善に向けた評価を組織的に行っている」「勤務校では，定期考査や校内外の学力調査等の分析結果を参考に，対象学年だけではなく学校全体の具体的な指導法を見直し，改善している」，そして「勤務校では，地域の人材や素材を積極的に活用している」があることが分かってきた。

SWOT分析と，カリキュラム・マネジメント検討用シートを基に，本校として生徒に身に付けさせたい資質・能力を「他者に対する配慮，思いやりの心」「真っ直ぐに取り組む姿勢」「自ら考えて

判断，行動する力」「仲間と協力する姿勢」「困難を前にしても，くじけず，諦めず，努力する生徒」とした。

ウ 「社会に開かれた教育課程」を実現するための，資質・能力を意識した実践

資質・能力を意識した授業を行うために，本校では以下の三つのステップで進めた。第一に各教科でのカリキュラム・マネジメントシートを作成し，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」をいつ，どのように身に付けさせるかを教科ごとに定めた。第二に，教育目標実現のための取組シートを作成した。このシートは，授業実践をする過程で，いつ，どの単元で，どの教科と関連させて授業の中に落とし込んでいくかを定めたものである。第三に，教科等横断の意識を常にもつために単元配列表を作成した。

上記のことを実際の授業で実践し教職員相互で研修する期間を増やすため，今年度より公開授業の期間をこれまでの1週間から2週間に拡大し，各教科で定めた「身に付けさせたい力」を授業に落とし込んだ授業実践を依頼した。例えば，英語の授業では「仲間と協力する姿勢」を育成のねらいとして「教科書本文を要約して発表すること」についてグループワークを行った。その他の教科でもそれぞれの授業で「身に付けさせたい資質・能力」を意識した授業実践を行った。

参観した教職員には，「フィードバックシート」に，よいと思った点，育成したい資質・能力をどのように踏まえているか，授業改善のアイデア等を記入してもらった。このシートは授業者が計画し（P）行った（D）授業について，評価（C）と改善行動（A）を伝えることでPDCAサイクルを回しており、授業者にとって授業改善の参考になった。

また，地域社会との関わりを意識し，今年度より，公開授業の案内を地域の小中学校と教育委員会に出した。そして，実際に本校の授業を参観していただき，アンケートにてさまざまなアドバイスをいただいた。高校とは異なる視点からのアドバイスは示唆に富み，大変参考になった。

学校全体でPDCAサイクルを回す活動としては，夏季休業と冬季休業に現職研修を行った。夏季休業は1学期の振り返りとSWOT分析を行い，冬季休業には「身に付けさせたい資質・能力」を育成するために取り組んだ授業の発表と，2学期の振り返りを行った。各自がグランドデザインを踏まえて取り組むことができたかをグループワークで振り返り，改善行動を発表する，という形式で行ったため，他の教職員の取組や視点を知ることができ，参加者にとって大変有意義なものになった。また，学校全体でPDCAサイクルを回している，という意識をもつことができた。

エ 成果と今後に向けての見通し

今年度は，新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から，長期にわたる教育活動の制限があった。そういう厳しい時期においても，カリキュラム・マネジメントの意識は教職員の中に常にあり，授業改善や現職研修等の取組において，理解・協力が進んだことを実感した。また，今年度より始めた公開授業の全面的な外部公開についても，教職員間に大きな異論はなく，異校種連携について前向きに取り組もうとする教職員が増えたように思える。

今後に向けての取組は次の通りである。まず，異校種連携の強化である。従来は散発的に地域の小中学校の授業参観に参加するのみで，連携意識に課題があった。今後は，学校教育目標に合わせて，計画的，継続的に異校種との交流を行い，東浦地区の小中高を貫く「育成したい生徒像」を検討したい。次に地域社会との関わりを深めることである。総合的な探究の時間の中で東浦町役場の方と連携し，東浦地区の探究活動を通じて地域社会と連携を深めたい。最後に，カリキュラム・マネジメントの継続である。今後も熱意あるリーダーの基に，全ての教職員がPDCAサイクルを回すことができるよう，教職員一丸となって取り組みたい。